



東地中海地域ニュース

イラン：続く選挙後の混迷

研究員 山崎 和美

抗議デモの拡大

15日、テヘランで数十万人以上を集めた改革派支持者たちによる抗議デモは、8人の死者を出してしまったにもかかわらず、一向に衰えを見せない。そればかりか、エスファハーン、シーラーズ、マシュハド、タブリーズ、ケルマーンシャーなどの地方都市にも波及した。イラン学生通信は16日、南部の都市シーラーズでアフマディネジャード大統領の再選に抗議するデモがあり、一部が暴徒化して約100人が逮捕されたと報じた。

北東部の都市マシュハドや中部エスファハーンでもデモがあった。マシュハドの住民の1人は同通信の電話取材に答え、当局は警官隊を大量に動員し、保守派の民兵組織バスイージも住民にデモに参加しないよう呼びかけていた、と語った。同地では15人の逮捕者が出たという。

テヘランでの抗議デモは16日夕方にも、中心部のヴァリーイェ・アスル広場で繰り広げられる予定だったが、アフマディネジャード大統領支持派が1時間早く、同広場で大集会を実施した。衝突を懸念したムーサヴィー陣営は支持者に自制を促したため、デモは4キロ北のヴァナック広場に移動して行われた。

ムーサヴィー元首相の支持者たちは、シンボルカラーの緑色のリボンなどを身にまとい、同氏の写真を掲げ、行進している。17日も抗議活動が続ける構えを示しており、一部参加者は、17日にテヘラン中心部のハフテ・ティール広場での抗議活動に参加するよう呼びかけるメッセージを送っていたという。一方、アフマディネジャード大統領の支持者は、テヘラン中心部でのムーサヴィー派の抗議活動を阻止するため、16日に抗議活動が予定されていた区域に数千人規模のデモ隊を動員した。

政府側の対応

イラン問題を扱うインターネット・メディアによると、ムーサヴィー元首相は投票前に、最高指導者ハーメネイー師に書簡を送っていた。その書簡は、選挙結果の承認権限を持つ護憲評議会の一部メンバーが中立的な立場を順守せずにアフマディネジャード大統領を公然と支持し、選挙実施を管理する内務省が集計作業の監視などからムーサヴィー陣営関係者を排除した、など、選挙の公平性に対する疑念を表明している。

こうした改革派支持者たちの抗議の声に対して、政府側も反応を示した。イラン国営テレビによると、護憲評議会は16日、大統領選挙について再集計を行う用意がある、とし、再集計により各候補の得票数が変わる可能性がある、としている。とはいえ、護憲評議会は、大統領選挙の取り消しを求める改革派の要求に応じることはない、との姿勢を示した。護憲評議会のスポークスマン、アッパースアリー・キャドホダーイー氏は国営テレビに対し「法に基づけば、選挙の取り消しを求める候補者の要求を考慮すること

はしない」と述べた。

さらに、ハータミー前大統領の側近だったモハンマドアリー・アブタヒ元副大統領ら改革派の有力者2人が16日、身柄を拘束された。また、デモの一拠点になっているテヘラン大学の寮などが強制捜索を受け、多数の負傷者が出た。文化イスラム指導省は16日、外国人記者に対し、抗議デモなど「非合法のイベント」の取材を事実上禁止する通達を出した。

国際社会の反応

オバマ米大統領は選挙の直後、「誰が当選しようとも、(選挙戦で)活発な討論が行われたことは、われわれの求める新たな方向を前進させるものだ」と述べ、選挙結果を受け入れる考えを述べていた。しかし、詳しい開票状況が伝えられた13日になって、ホワイトハウスのギブズ報道官が「不正行為の報告を含めて、全体的な状況を引き続き注視したい」との談話を発表した。カナダを訪れていたクリントン国務長官も同日、「イラン国民の願いが選挙結果に正しく反映されるよう期待する」と述べるなど、対米強硬路線を取る現職が、高い得票率で再選された結果を米政府が疑問視する姿勢をにじませていた。

ただしオバマ大統領は、アフマディネジャード大統領との直接対話を視野に入れており、デモを続ける改革派への支援表明は出しておらず、慎重な対応を迫られるというジレンマに陥っている。15日には、「沈黙を続けることは間違いだ」として、抗議デモを狙った暴力に「困惑している」と表明した。また16日にはCNBCテレビのインタビューに答えて、アフマディネジャード大統領とムーサヴィー元首相の間に、政治的立場の違いはほとんどないように見える」と答えた(16日、ロイター)。

欧州連合(EU)の執行機関である欧州委員会のスポークスマンは16日の記者会見で、先のイラン大統領選の結果をめぐる同国での混乱で死傷者が出ていることについて、「強く懸念している」と語り、同国当局に対し、「平和的なデモの権利を尊重」するよう求めた。

国際ジャーナリスト組織「国境なき記者団」(RSF、本部・パリ)は14日、イラン当局による検閲や報道関係者の取り締まりを理由に、各国は選挙結果を承認すべきではないとする声明を出した。RSFは同日までに、記者4人が当局に逮捕されたことを確認した。さらに10人が行方不明になっているという。

一方、ロシアのチマコワ大統領報道官によると、同国エカテリンブルクで16日開かれた上海協力機構(SCO)首脳会議の席上、各国首脳は、オブザーバー出席したイランのアフマディネジャード大統領の再選を祝福した。アフマディネジャード大統領は16日午前、予定より1日遅れでロシアに入った。会議で大統領は「イラクの占領が続き、アフガニスタンの混乱は深まっている。パレスチナの問題も未解決だ。米国は経済危機に陥り、解決の希望はない」と演説した。さらに、「帝国の時代が終わりを迎えたのは明白で、復活はあり得ない」と述べ、米国の世界支配が終わったとの見方を強調し、国内の混乱にもかかわらず、意気軒高な姿勢を見せた、という。

本「かわら版」の許可なき複製、転送、引用はご遠慮ください。

ご質問・お問合せ先 財団法人中東調査会 TEL:03-3371-5798、FAX:03-3371-5799